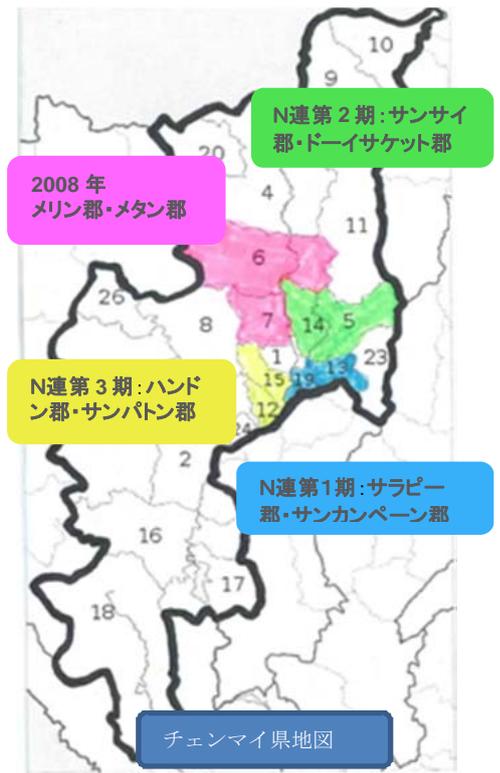


日本NGO連携無償資金協力(3年間)
タイ王国チェンマイ県 子宮頸がん・乳がん早期発見・適切治療推進事業
特定非営利活動法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン

1.事業背景

がんがタイ人の死亡原因の1位となつて久しいが、その中でも女性特有のがんである子宮頸がんと乳がんの罹患率・死亡率が高くなつてきている。特にチェンマイ県は、罹患率・死亡率が高い状況にあるものの、子宮頸がん検診受診率(細胞診)が25%と低い状況にあり、乳がん自己触診も普及していないと考えられる(Chiang Mai Public Health Office 2009)。これは、子宮頸がんと乳がんに関する看護師の検診技術や、村のヘルスポランティアの知識が不足していること、検診に必要な医療機材が整っていないこと、住民の意識の低さ等が原因である。

当団体は、2008年からチェンマイ県のメリン郡・メタン郡で子宮頸がんの早期発見・適切治療推進事業を実施し、事業前はそれぞれ10%、12%であった検診受診率を2010年4月時点で51%、60%まで上昇させることに成功した。その経験を活かし、チェンマイ市内近郊の6郡(サラピー郡、サンカンペーン郡、サンサイ郡、ドーイサケット郡、ハンドン郡、サンパトン郡)で、新たに乳がんの自己触診法の普及を含めた日本NGO連携無償資金協力3年事業を実施した。



2.目標と成果

2.1 上位目標

チェンマイ県6郡の30-60歳の女性が、子宮頸がん・乳がんに対する知識を向上させ、定期的な検診を実施することにより早期発見・適切治療を促すことで、両がんによる死亡率を低下させる。

2.2 上位目標の達成度

3年間6郡で子宮頸がん検診(細胞診)により異常が見つかった女性は241名、乳がん自己触診により異常が見つかった女性は147名おり、各々が精密検査を受けた。このうち子宮頸がんと診断されたのは6名、乳がんと診断されたのは21名で、全員が症状に合った治療を受けている。このことから当事業は、上位目標である両がんによる死亡率の低下に寄与した。

表1 検診により異常が見つかった女性数及びがんと診断された女性数

期 郡		第1期		第2期		第3期		計
		サラピー	サンカンペーン	サンサイ	ドーイサケット	ハンドン	サンパトン	
子宮頸がん	異常が見つかった女性数	42名	90名	44名	19名	14名	32名	241名
	(後の精密検査により)がん と診断された女性数	1名	1名	4名	0名	0名	0名	6名
乳がん	異常が見つかった女性数	29名	32名	17名	31名	8名	30名	147名
	(後の精密検査により)がん と診断された女性数	0名	3名	4名	12名	1名	1名	21名

2.3 事業目標

3年間で計6郡のターゲット年齢(30-60才)の女性106,802(注1)人のうち、下記を目標とする。

- ・子宮頸がん検診受診率 50%以上(注2)
- ・乳がん自己触診実施率 70%以上
- ・検診の結果異常が見つかった女性の精密検査と適切な治療 100%

*注1

住民の郡外への引っ越し等により、ターゲット年齢の女性数が申請書提出時の125,100人から変更になっている。

*注2

保健省は、対象年齢の全女性のうち50%が検診を受けることを政府目標にしていたが、2010年10月に変更した。新規の目標は、2010年10月以降検診を受けていない30-60歳の全女性のうち、毎年新たに20%が検診を受けるというものである。しかし当団体は、チェンマイ県保健局と相談のうえ、当初の保健省の政策に従い、対象年齢の全女性のうち50%が検診を受けることを事業目標に設定した。

2.4 事業目標の達成度

事業実施期間中における6郡での子宮頸がん検診受診率は63%、乳がん自己触診実施率は89%と目標の50%、70%を上回った。また、異常が見つかった女性は、その後100%病院で精密検査を受けた。事業実施前の子宮頸がん検診受診率の平均は15%であったことから、当事業により検診受診率が飛躍的に上がったことが分かる。(事業実施前の乳がん自己触診実施率は入手できなかったが、本事業を通して初めて自己触診法を習った人が多かったことから、以前の自己触診率は低かったと考えられる。)

表2 子宮頸がん検診受診者率、乳がん自己触診実施率及び異常が見つかった後に精密検査を受けた率

郡		第1期 2010年11月～ 2011年10月		第2期 2011年11月～ 2012年10月		第3期 2012年11月～ 2013年10月		合計 または 平均 6郡	
		サラピー	サンカン ペン	サン サイ	ドーイ サケット	ハンド ン	サンパ ン		
30-60歳の女性人口		20,835 名	20,305 名	21,966 名	14,727 名	13,964 名	15,005 名	106,802 名	
子宮 頸 が ん	事業前 (2009)	検診受診率	18%	11%	8%	8%	22%	24%	15%
	事業 期間中	検診受診率	50%	51%	83%	56%	67%	69%	63%
		検診受診者数	10,512 名	10,359 名	18,129 名	8,290 名	9,414 名	10,402 名	67,106 名
		精密検査受診率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		精密検査受診者数 (注4)	42名	90名	44名	19名	14名	32名	241名
乳 が ん	事業 期間中	自己触診実施率	76%	76%	101% (注3)	92%	95%	98%	89%
		自己触診実施者数	15,899 名	15,513 名	22,117 名	13,574 名	13,244 名	14,779 名	95,126 名
		精密検査受診率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		精密検査受診者数	29名	32名	17名	31名	8名	30名	147名

*注3

サンサイ郡では、村のヘルスポランティアが乳がん自己触診法を学んだ女性の数を二重カウントしていたため、100%を超えてしまった。

*注4

子宮頸がん検診により異常が見つかった人の割合が、国際水準と比較して低いと思われる。検診精度の低さに問題がある可能性があり、日本の子宮頸がん分野の第一人者である医師を派遣し新しい検診方法の導入(HPV検査)も検討した。しかし、現時点でのチェンマイ県保健局の方針が細胞診の普及であることから、新しい検診方法の導入は断念し、従来通りの検診(細胞診)を行った。

3.主な活動

3.1 看護師の研修

3年間で計164名の看護師に研修を行った。2日間にわたり子宮頸がん・乳がんの基礎知識を学ぶほか、検診技術を磨くための実地訓練も行った。研修前後に行った知識度を測るテストでは、第2期で10%、第3期で9%の向上がみられた。(第1期はテストを実施できなかった。)また、検診を受けた女性からも看護師の検診技術に満足であるとの声が多く聞かれた。



3.2 村のヘルスポランティアの研修

3年間で計2,696名の村のヘルスポランティアに研修を行った。看護師が講師となり、子宮頸がん・乳がんの基礎知識のほか、一般の女性に検診受診を呼びかけるための技術や、乳がん自己触診法を学んだ。研修前後に行った知識度を測るテストでは、6郡の平均で18点の向上がみられた。研修後、ここでの知識や技術を生かし、自分の担当する村の女性を訪問し、検診受診を呼びかける役割を担った。また、検診キャンペーンに来ることができない女性には、村のヘルスポランティアが個別に乳がんの自己触診法を伝えた。



3.3 選ばれた村のヘルスポランティアの特別研修

村のヘルスポランティアの中から積極的に活動する人々を157名選別し、特別研修を行った。通常の村のヘルスポランティアへの研修よりも深い内容の基礎知識や検診方法等を学んだ。また、後述する検診キャンペーンにて、看護師の補佐として医療器材の準備を手伝うための知識を学んだ。



3.4 子宮頸がん・乳がん検診キャンペーン

当団体支援で267回、病院が自主的に開催した52回と合わせると、計319回の検診キャンペーンを行った。そのうち34回は、移動検診車を用いることで会社や集会所等、病院以外での場所で行うことができた。キャンペーンでは子宮頸がん・乳がんに関する健康教育を行い、同意が得られた女性には看護師が検診を実施した。



3.5 検診に必要な機材購入と教育教材の作成

病院や移動検診車に、検診用ベッドや照明、乳房モデル等、検診に必要な機材を配備し、検診で有効に活用した。また、検診キャンペーンへの参加を呼び掛けるためのパンフレットを女性住民に配布したり、がんの知識を伝えるポスターを検診キャンペーン時に掲示した。



3.6 異常が見つかった女性のフォローアップ

町病院で子宮頸がん検診を受けた女性のうち、計 241 名に異常細胞が見つかり、乳がん自己触診を行った女性のうち、計 147 名にしこり等の異常が見つかった。村のヘルスポランティアや看護師、当団体職員がこれらの女性のもとを訪問し、その後の精密検査と治療を受けられるようにフォローした。その結果、100%の女性が精密検査を受け、6 名に子宮頸がん、21 名に乳がんが見つかり、各々が必要な治療を受けた。

子宮頸がん検診で異常が見つかった女性の声

➤ 43 歳の女性 A さん

14 年前に出産して以来、特に症状もなく健康だったので子宮頸がん検診を受けていなかった。2012 年 3 月に町病院で検診(細胞診)を受けた際に異常が見つかり、その後 7 月の精密検査でステージ I の子宮頸がんと診断された。A さんの夫は左半身に麻痺があり働くことができないため、A さんが一家の大黒柱として働いている。二人の子供もまだ小さいこともあり、自身の健康が心配だと話していた。7 月に当団体職員が A さんの家庭を訪問したとき、病気への不安を抱えているようだったので、看護師らとともに彼女とその家族を励ました。8 月に手術を受け、その後 3 カ月後にフォローアップ検診を受けた。当団体職員が 10 月に再度 A さんの元を訪れたとき、術後も順調で今はもう何も心配していないと話した。



Aさん

乳がん自己触診で異常が見つかった女性の声

➤ 53 歳の女性 B さん

2013 年 2 月に検診キャンペーンに参加した際、左の乳房にしこりが見つかった。ナコンピン病院で精密検査を受け、ステージ II の乳がんであることが分かった。その後数回にわたる化学療法を受け、5 月には乳房切除手術も受けた。6 月に当団体職員が看護師らと共に B さんの家を訪れた。B さんは治療の影響で食欲が落ち、髪も抜け落ちており、手術痕もまだ痛むと話していた。しかし、自宅を訪問した皆に感謝の意を示しており、今後も自分の体調に気を配ると話していた。



Bさん(写真中央)

4.自立発展性

第1、2期の活動地では、当事業終了後も高い検診受診率を維持しており、自立発展性は高い。第1期の活動地であるサラピー郡で昨年は58%、今年は60%(当事業前は18%)、サンカンペン郡で昨年は42%、今年は60%(当事業前は11%)であった。第2期の活動地であるドーイサケット郡で今年は51%(当事業前は8%)、サンサイ郡で50%(当事業前は8%)であった。

今後は看護師や選ばれた村のヘルスポランティアらが主体となり、その地域のヘルスポランティアの教育を行うこと、また村のヘルスポランティアが引き続き一般女性への啓蒙活動を行うことが最終会議で話し合われた。

移動検診車は、第3期終了時にチェンマイ県保健局経由サラピー郡病院に寄贈し、維持管理費を含めて全てサラピー郡病院が管理することを取り決めた。各郡は必要に応じて保健局から移動検診車を借りて、検診キャンペーン等で活用する。

第3期の活動地であるハンドン郡とサンパトン郡では、事業終了後も現地政府からの資金を獲得し、各町病院で年2回ずつ、計66回の検診キャンペーンを継続する予定であると郡病院長が述べている。また、大規模な検診キャンペーンを実施することは困難だとしても、当事業を通じて検診技術を磨いた看護師が、それぞれの町病院で定期的に検診を実施し始めており、今後も継続される見通しである。(例:第2期の活動地であるドーイサケット郡の町病院では、当事業前までは女性住民が希望しても年1回の検診キャンペーン時しか子宮頸がん検診を実施しなかった。しかし事業終了後には、2病院が毎週、1病院が毎月定期的実施するようになった。)

以上のことから、事業終了後も高い検診受診率を維持するものとする。

表3 子宮頸がん検診受診率の推移

	サラピー郡	サンカンペン郡	サンサイ郡	ドーイサケット郡	ハンドン郡	サンパトン郡
2009年 事業前	18%	11%	8%	8%	23%	24%
2011年	50% (事業 実施年)	51% (事業 実施年)				
2012年	58%	42%	83% (事業 実施年)	56% (事業 実施年)		
2013年	60%	60%	51%	50%	67% (事業 実施年)	69% (事業 実施年)